

○住吉正・鈴木清志<sup>1)</sup>

(九州沖縄農研・<sup>1)</sup>ダウ・ケミカル)

【目的】

近年、水稻作においてクサネムやアゼガヤといった一年生の田畑共通雑草の発生が問題となっている。アゼガヤは通常湛水条件では発生できないが、水稻湛水直播栽培の落水管理に伴う発生が問題となり、これまでに生態や防除についての検討がなされた。しかしながら、移植栽培での発生実態や効果的防除技術は未検討であり、除草剤による防除のための指標を得る目的で、まず初めに生育の様相について調査した。

【材料および方法】

試験は2005年に九州沖縄農研（福岡県筑後市）において行った。アゼガヤ種子は2003年に小郡市で採集し、風乾して10°Cで貯蔵したものを用いた。

1/5,000 aポットに水田土壌（沖積軽埴土）を詰め、5月20日および6月20日にアゼガヤ種子を播種した。ポットは雨よけハウス内に置き、適宜灌水して、生育経過を観察した。

5月および6月に播種したものについてそれぞれ播種後11～17日目および播種後11～15日目に採集し、葉齢と草丈を調査した。また、6月に同様に調整した1/5,000 aポット内土壌から自然発生したヒメタイヌビエを7月1日～6日に採集し、葉齢と草丈を調査した。

【結果および考察】

1) アゼガヤの生育経過

5月に播種したものは播種後6日目、6月に播種したものは播種後3日目に出芽始めとなった。葉齢の進展は5月播種に比べ6月播種で速く、

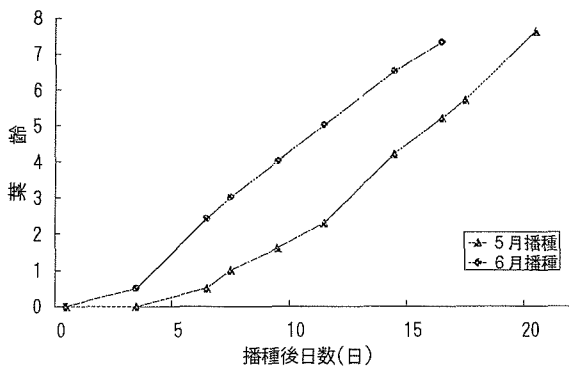


図1 アゼガヤの葉齢進展

5月播種では播種後13日目に3葉期、播種後16日目に5葉期に達し、6月播種ではそれぞれ播種後7日目および11日目に達した（図1）。

出芽当日から5葉期に達する前日までの日平均気温の積算値は、5月播種では237°C、6月播種では231°Cであったことから、アゼガヤの葉齢進展は気温による推定が可能と考えられた。

6月に播種されたヒメタイヌビエの葉齢進展に関する同様な調査結果では、2葉期に達するのに8～11日、3葉期に達するのに11～13日かかっており、アゼガヤの生育初期における葉齢進展速度は、ヒメタイヌビエなどのノビエ類よりも速いものと推察される。

2) 葉齢と草丈の関係

アゼガヤの葉齢と草丈との関係は播種時期によって異なり、同じ葉齢で比較した場合、6月播種で得られた個体は5月播種で得られた個体よりも草丈が高い傾向を示した。一方、同様にして得られたヒメタイヌビエの個体はアゼガヤよりもさらに草丈が高かった（図2）。

通常、水稻用除草剤の処理時期はノビエの葉齢を指標として決定されるが、アゼガヤは同じ葉齢で比較した場合にノビエよりも草丈が低く、葉齢を見誤る可能性がある。また、アゼガヤの第1葉身長は3-6mm、第2葉身長は4-10mm程度であり、非常に短いため見落とし易い。一方、草丈は生育時期によって異なった葉齢に対応することから、草丈を指標とすることは困難であり、アゼガヤの葉齢判定には細心の注意が必要である。

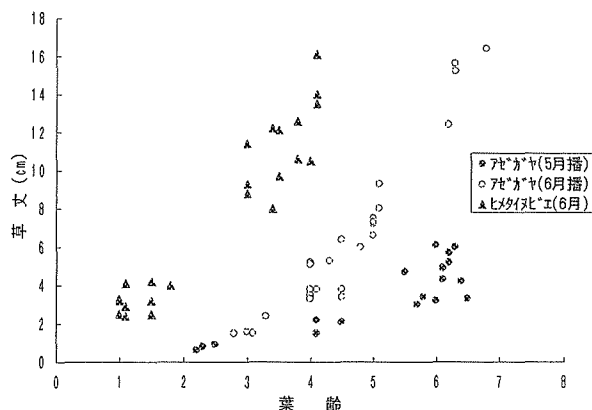


図2 アゼガヤおよびヒメタイヌビエの葉齢と草丈の関係